

＜ 鑑賞を柱にした指導 ＞ 高等学校音楽Ⅲ(事例12)

1 題材名 「音楽から情景・感情を感じ取ろう」

2 題材について

本題材は「音楽Ⅲ」の「B鑑賞」「ア、音楽の美しさと構造とのかかわり」を指導する事例である。

本校の鑑賞の授業では、楽曲の歴史的背景や曲の構造、作曲家についての学習を中心に行ってきたが、本題材では、楽曲の構造の特徴を読み取り、詩の内容や歌唱表現の変化とを結び付けながら、音楽が表現している情景や感情を感じ取らせたい。また、感じ取ったことを文章で表し、自分なりに表現をする力もはぐくんでいきたい。また、本題材を通して、詩からのイメージだけではなく、様々な視点で曲を味わうことを経験し、これまでとは違った音楽鑑賞の楽しみ方も身に付けて欲しいと考える。

3 題材の目標

- (1) シューベルトとドイツリートについて知り、詩の内容を味わいながら聴く。
- (2) 曲の構造的な特徴を楽譜と音から気付く。
- (3) 歌曲の中でピアノ伴奏が表現している情景や感情を感じ取り、文章で表現する。

4 教材

表現教材 「野ばら」(音楽Ⅰでの既習曲)

鑑賞教材 「魔王」「糸を紡ぐグレートヒェン」「郵便馬車」「ます」

5 題材の評価規準 (B鑑賞 3時間扱い)

	観点1 関心・意欲・態度	観点2 芸術的な感受や表現の工夫	観点3 創造的な表現の技能	観点4 鑑賞の能力
題材の評価規準	・作曲家や作曲の背景を知ること、曲に対する関心を持ち、意欲的に歌ったり鑑賞したりしている。	・楽曲の構造や歌詞を知り、楽器と歌声がそれぞれ表現していることを感じ取っている。	・構成や歌詞を理解し、楽曲にふさわしい曲想で表現する技能を身に付けている。	・音楽を特徴付けている諸要素が表現に結び付くことに気付き、自分なりの意味付けをしながら鑑賞している。
学習活動における具体的評価規準	① ドイツ語の発音に注意し、曲想を感じ取りながら楽しんで歌おうとする。 ② 作曲家について、時代背景や作曲当時の心情を知り、曲に対する知識・関心を深める。 ③ 歌詞の意味を知り、歌い方や伴奏の表現方法の特徴に関心をもって聴き取ろうとしている。	① リズムや歌詞にふさわしい歌い方を工夫している。 ② 歌唱表現の変化に気付き、特徴を自分なりの言葉で表現している。 ③ 楽譜や音から音楽の構造的側面を読みとっている。	① ドイツ語の発音に注意し、曲想にふさわしい歌い方をしている。	① 歌唱表現の変化を味わって聴いている。 ② 感じ取った情景や人物の感情を具体的な言葉で書き表し、他者に伝えている。

6 指導と評価の計画（3時間扱い）

時	ねらい・学習活動	評価項目	学習活動活性化への視点（指導上の留意点）
①シューベルトとドイツリートについて知る（1時間）			
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「野ばら」を歌う。 ○ワークシートと映像からシューベルトの生涯とリートについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空欄を書き込む。 ○「魔王」を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの人物の声の特徴を言葉で表現する。 	<p>観点1-① 観点2、3-①</p> <p>観点1-②</p> <p>観点4-① 観点2-②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習曲を歌い、シューベルトの歌曲に親しむ ・ 歌詞を復習し、曲のリズムや雰囲気合った歌い方を考えるように促す。 ・ 生い立ちを映像を交えて解説する。途中で代表的な作品を鑑賞する。 ・ 詩を先に紹介し、ストーリー上の登場人物を確認し、場面を想像させる。 ・ 声の特徴は自由に表現するよう促す。歌詞に合わせて歌い方を変えていることに気付かせる。
②リートの中でのピアノの役割を知る。（1時間）			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌曲「ます」を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 詩を読み、内容を理解する ・ 原語と対訳を見ながら、一度通して聴く。 ・ シューベルト歌曲の伴奏の特徴を知る。 ・ 伴奏に気を付けながらもう一度聴く。 ○ 他の歌曲を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伴奏のみを聴き、曲名を当てる ・ 曲名は板書する。 ・ 3、4人でグループを作り、答えを照らし合わせる。 ○ 歌詞を見ながら歌を聴く 	<p>観点1-③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌のみと、ピアノの伴奏のみをそれぞれ範奏し、伴奏が何を表現しているかを考えさせる。 （川の流れ、鱒の動き、釣り人、水の濁りなど） ・ 伴奏の特徴を具体的に挙げ、曲に対してどのような効果を与えているかを考えさせる。 ・ 構造的側面（繰り返されるフレーズ、リズム、強弱等）を示す。 <p style="text-align: center;">曲名：①糸を紡ぐグレートヒェン ②郵便馬車 ③菩提樹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを配布し曲名と詩の内容を紹介する。
③曲の構造を知り、ピアノの音から情景・心情を想像する。（1時間）（「8観点別評価の進め方」参照）			
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の確認をする。 ○ グループで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の3曲から1曲選曲する。 ・ 楽譜とワークシート、CDを使用し、話し合いを進める。 ○ 話し合いの内容を発表する。 	<p>観点2-③</p> <p>観点4-②</p>	<p>プリントの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 楽譜から読みとれること（同じ音型、リズム、強弱、転調など）を見つける。 ② 読み取った内容を歌詞の内容や歌の旋律を参考に、意味付けをする。 ③ 「この曲を聴く人に伴奏の聴き所を説明する。」という設定で紹介文を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ CDや伴奏の演奏を用いながら紹介文の発表をする。 ・ 各班の評価と補足説明を行う。

7 本時の学習（3／3）

(1) 目標 曲の構造を知り、ピアノの音から情景・心情を想像する。

(2) 展開

学 習 活 動	○ 教師の働きかけ ◆ 評価規準
<p>1 前回の内容とグループの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の3曲を聴く。 ・ グループで研究する1曲を決める。 <p>2 グループで話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ① 楽譜（伴奏部分）の特徴を見つけて意見を出し合う。 ・ テーマ② ①で挙げた特徴によって、曲にどのような効果があるのかを考える「具体的な情景」と「登場人物の感情」のテーマで話しあう。 ・ テーマ③ 「この曲を聴く人に伴奏の聴き所を説明する。」という設定で紹介文を考える。 (各自で考え、班でまとめる) <p>3 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの発表を行う。 ・ 他グループの発表を聞いた感想を書く。 	<p>○ 日本語訳のついた楽譜を配り、CDで曲を確認する。 「糸を紡ぐグレートヒェン」「郵便馬車」「菩提樹」</p> <p>○ ワークシートの配布。班に1枚CDを渡す。</p> <p>○ 繰り返されている同じ音型や、特徴的なリズム、強弱、転調などに気付かせる為に、部分的に伴奏のみ弾いて聴かせるなどの援助をする。</p> <p>◆観点2 芸術的な感受や表現の工夫③</p> <p>○ 歌詞の内容や歌の旋律を参考にし、自由に考えさせる。 イメージが浮かばない生徒には具体的に歌詞等からヒントを与える。</p> <p>◆観点4 鑑賞の能力③</p> <p>○発表の仕方は各グループで考えさせる。部分的に伴奏の演奏が必要な場合は援助をする。</p> <p>○各グループ終了後に講評と必要があれば補足を行うが、生徒の発想を大事にする。</p>

8 観点別評価の進め方

評価の場面（6 指導と評価の計画の太枠内）

○この場面の学習活動

- ・ グループで曲の構造的側面について話し合い、そこから伴奏が表現している情景等を考え、意見を出し合う。
- ・ グループで意見をまとめて発表をする。

○学習活動における具体の評価規準

- ・ 楽譜や音から音楽の構造的側面を読みとっている。(2-③)
- ・ 感じ取った情景や人物の感情を具体的な言葉で書き表し、他者に伝えている。(4-②)

○評価方法

<観察> 鑑賞の様子と、話し合いへの参加の仕方や、プリントの記入内容を観察する。

○「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する具体例

- ・ 伴奏の音型やリズムの特徴を具体的にあげ、また、転調による表現の効果をわかりやすく発表している。(2-③)
- ・ 構造的側面を歌詞や歌と関連付けてピアノが表現している内容を自分なりに考え、発言することができる。(4-②)

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて

- ・ 課題に対しての説明を個別に行い、具体例を挙げながら内容を理解させる。また、自分から考えられるようヒントを与える。
- ・ 自分の考えが出ない生徒については、友達の考えについてどう思うかを考えさせる。